

Works

—ローカルエリアでも自立して継続的に情報発信できる環境を育てる仕事

メディアに取り上げられることが増え、訪れる人の数が年々増加している尾道。そんな中で「尾道に住んでみたいけれど、都会とは違ってすぐに仕事が見つからないかもしれない」という声をしばしば耳にします。

今回で紹介するのは島根県で地域おこし協力隊として活動した後、横浜市から移住し、尾道でフリーランスのWEBデザイナーとして起業した岡村虹二さん。どうやって地方の中で仕事を生み出しているのかをお聞きました。

—フリーランスとして起業しようと思ったのはなぜですか？

ITやデザインを行う人材が少ない離島や中山間地域などの地方では、情報発信を都市部の制作会社に外注することが多いのですが、とりわけ、ホームページについては、せっかく制作会社に依頼して立派なものを作っても、助成金が切れると同時に更新ができなくなってしまうというケースを地域おこし協力隊時代によく目にしました。国から地方に入ったお金が、

都市部へと流れていく。このままでは、地方はいつまでも自立できない。食の地産地消が進むように、情報発信のあり方も地方で完結し、地域内で経済が循環する仕組みが必要なのではないかと思い創業しました。

一都会とは違って情報発信を行う人材が少ない、というところに着目されたんですね。独特な視点です。

なので、自主更新ができていないサイトを専門知識がなくても簡単に自主運営できるシステムに組み直したり、新規でサイトを作る場合も自主運営ができるようにレクチャーをしたりする制作業務と、地域の中で情報発信が行える人材を作るためにWEB制作やイラストレーター、ポスターやチラシづくりのワークショップを行なっています。情報発信の分野において、地域が持続可能なカタチを作ることが僕の仕事です。

—なぜ尾道を拠点に選ばれたのでしょうか。

仕事の内容上、尾道はしまなみ海道・やまなみ街道・山陽道と地方へのアクセスの交差点になっているのが大きいです。また、都市部と違い家賃などの生活コストが低いのもありますが、何よりも、様々な人がオープン且つゆるやかに繋がっていく尾道独特の空気感が性格に合うというもあります。



ONOMICHI SHAREでは会員の方と一緒に作業をしたり、遊んだり、ここでの繋がりが仕事になることもよくあります。

monofu[ものふ]

URL: <https://monofu.com>

働く人とはなん —no.06

職場にお弁当、その2

外に出るのが気持ちのいい季節になりましたね！尾道にいと、尾道水道の眺めと、向島の緑が目にとまります。瀬戸内の温暖な気候には、さわやかな風が大変気持ちいいものです。

以前のコラムでお弁当の話を出しましたが、シェアオフィス利用者でもご自身で作ったお弁当や近くのお店の持ち帰りをオフィス内で食べる方も日常的にいらっしゃいます。館内でも飲食はできますが、せっかくならテラスでランチを食べることがスタッフのおすすめです。解放感があり、ちょっとしたピクニック気分を味わっていただけます。

仕事が忙しいとゆっくりランチを食べている場合ではないと思って、ついパソコンの画面を見ながら簡単に済ませてしまう方もいるかもしれませんが、あえて場所を



変えてみるとかえって仕事がかどることもあるかもしれません。尾道には海沿いや商店街、店舗の前にもベンチがあります。ぜひ、一度仕事のランチは外で味わってみてください。気持ちのいいリフレッシュになりますよ。

How to SHARE

—コンシェルジュをどう活用するか？

シェアオフィスによってはコンシェルジュが駐在している施設もあります。受付とは異なる「コンシェルジュ」とはどういう役割を担っているのでしょうか。

上手くコンシェルジュを活用されている会員の方は、その方の自社スタッフではないにしろ、人の手が借りたいというときに頼ってくださると思います。

例えば不在時に荷物が届く、来客があるというときはご本人の代わりにご対応させていただきます。

また、お仕事に関してお困りごとを抱えられることもあります。コンシェルジュは地域の情報にアンテナを張っていますので、ご



相談いただければ、そのときに合う“誰か”や“何か”をご紹介できるかもしれません。

オフィスによっては、シンプルな作業スペースとしてのニーズからスタッフ不在（無人）の施設もあります。一方で、ONOMICHI SHAREは有人のオフィスです。コンシェルジュも施設のサービスの一つとして、上手く活用していただきお仕事でお役立ていただければと思います。

PICK UP 尾道自由大学

ONOMICHI SHAREとも関連がある尾道自由大学のコンセプトは、「自由」を考え、自ら行動していくための学びの場。日常働く人が、自身の仕事とは異なる職業の人に出会い視野を広げる場でもあります。このコーナーでは、数ある講義の中から1講義をピックアップしてご紹介いたします。今回は、7月に開催される「働く人のための質問レッスン～働く人のコミュニケーション術～」をご紹介します。

コミュニケーションが得意な人という、どんな人を想像しますか？コミュニケーションの二つの要素〈話す〉と〈聞く〉、この両者を繋ぐものが「質問」です。本講義の教授は哲学者。哲学対話を手法とし、質問から対話者の思考をサポートするプロフェッショナルです。講義内容は、ワークショップを通して、対話者の考えを紐解く質問の仕方を学びます。加えて、今回は“働く”がテーマ。“働く”に関する多種多様な考えを発掘します。仕事について考えるきっかけ



にしながら、職場でも役立つ「質問力」を尾道自由大学で身につけましょう。

「働く人のための質問レッスン～働く人のコミュニケーション術～」

日程：2018年7月14日（土）10:30～17:00

2018年7月15日（日）10:00～15:30

※二日間通して受講ください。

授業料：20,000円（税込）

教授：松川 絵里 氏

キャンパス：尾道自由大学キャンパス

（尾道市土堂2-9-33 豊田ビル3F）

※申込は7月2日（月）まで受付中

詳細、お申込みは尾道自由大学のHPをご覧ください

<https://onomichi-freedom-univ.com>



SHARE スタッフの

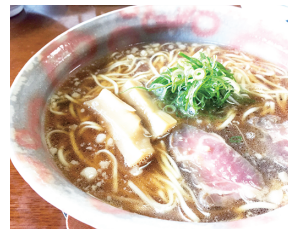
今月の気になる〇〇 「尾道ラーメン」

尾道と言えば尾道ラーメン。1990年代にこの名称で呼ばれ始めたことをご存知でしょうか？今回はこの尾道ラーメンをご紹介します。

尾道ラーメンは1974年

に台湾出身の朱阿俊が提供したラーメンに始まったと言われていますが、「尾道ラーメン」という名称が使われたのは、福山市鞆の浦の珍味メーカー「阿藻珍味」が販売した「お土産用尾道ラーメン」が最初だったと言われています。

特徴は、醤油味ベースのいりこ出汁のスープに平打ち麺、仕上げに豚の背脂をチャッチャと落とします。お店によっては豚骨や鶏ガラから出汁を取ったりストレートの細麺を使います。古くからあるお店では、豚の背脂を使わないところも。筆者は見た目以上に濃い味のラーメンだと感じています。皆さまの感想やお気に入りのお店ではいかがでしょうか？



（写真協力：尾道めん家 山崎 / 土日祝のみ営業）

ONOMICHI SHARE

尾道のシェアフロア & コワーキングスペース

開館時間 9:00～18:00
定休日 不定休

利用プラン (表記：税抜)
法人会員 入会金 50,000円
会費 50,000円/月
個人会員 入会金 10,000円
会費 10,000円/月

個人会員（土日祝限定）
入会金 5,000円
会費 5,000円/月

ドロップイン利用
料金 500円/2時間
1,000円/日

広島県尾道市土堂2丁目10-24 2F
Tel. 0848-38-2911 / Fax. 0848-38-2912
✉ info@onomichi-share.com



ONOMICHI
SHARE